

シャルル・ドゴール

星周著

渡邊 啓貴著

息子の悲哀を、いずれも犬篇を収める。マウンテン・

の余命がいくされたすれち最期を看取るわせるという主人公はこう

の伴侶だ。人、犬も人をよ種族間には存を持つ「人間を理解してい

向が残る。し、このことを深くつに思える」

ワイルメイトの勤的な愛犬小過激な暗黒人人にはちよ読者の魂に

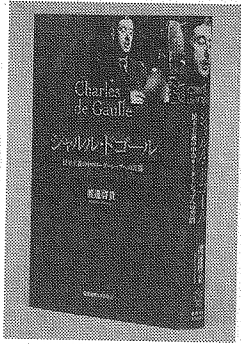
質は、やはるものだ。人人には大きいまだ飼って感動を与え

(6800円)

1965

『不夜城』『漂

ドゴールは強力なりダーシッ
ップを發揮して、二度、フラン
スを国難から救った。最初は第
二次世界大戦の時、ドイツとの
戦いに敗れて方向を見失ってい
たフランス人にロンドンからラ
ジオで「フランスは戦闘に負け
た。しかし、戦争に負けたくわけ
ではない。なぜなら、この戦争
は世界戦争だからである」とレ
ジスタンス運動に立ち上がるよ
う呼びかけ、フランス人を結束
させて勝利へと導いた。そして、
それから十数年後、アルジェリ



ア独立問題をめぐってフランス
が内戦の危機にさらされた際に
ふたたび登場し、断固として独
立を承認することによって見事
に混乱を終息させた。

しかし、順調にキャリアを積
んだ政治家では、けつしてない。
ドイツとの戦いを呼びかける第
一声を発した時、ドゴールは一
軍人にすぎず、政治家としての
実績はまったくなかった。だか
ら、レジスタンス運動を一つに
まとめるのも困難を極めたし、
アメリカとイギリスに自分をフ
ランス政府代表として認めさせ

フランス救った英雄の苦闘を描く

フランス文学者 安達 正勝 評

るにも大変な苦勞をした。そし
て「アルジェリア危機」で第一
線に返り咲くまでの十数年間に
は「砂漠の横断」と言われる、
長い不遇の時代があった。

ドゴールは現在の政体、第五
共和政の産みの親でもある。政
党政治に不信任感を抱き、「主権
が諸政党に代表されるばらばら
な利害によってこま切れに存在
しうるなどとは、到底容認でき
なかった」とドゴールは語って
いた。第五共和政は「国民の直
接的な信任によって権力を与え
られた強い指導力をもつ大統領
制度の完成」であった。

ドゴールはアメリカへの対抗
意識が強かったことでも知られ
る。「偉大なフランス」を復活
させるには、外交上自立する必
要があった。軍事力、経済力な
どではアメリカにかなわない
が、「フランスは普遍的文化の
国だ」という自負心があった。
ドゴールには、ジャンヌ・ダ
ルクやナポレオンの系譜につな
がる救国の英雄の風貌がある。
本書を読めば、新鮮な驚きを感じ
つつドゴールの全体像を知ること
ができる。

(慶應義塾大学出版会)

3360円

わたなべ・ひろたか 東京外
国語大学大学院教授。